

「人権 × 世界 × キャリア」

公開講義

アフリカの将来を問う

開発と人権確立をいかに両立させるか？

－エチオピアにおける開発と人権の矛盾を例に－

平成23年7月5日(火) 12:50～14:20

会場：宇都宮大学国際学部 A棟大会議室 (参加費無料)

◆問合せ：宇都宮大学国際学部 yonekawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp TEL：028-649-5180

講師

ヨセフ・ムルゲタ氏

(人権弁護士)



ベン・ロレンス氏

(ヒューマンライツウォッチ・アフリカ担当)

エチオピア政府は海外からの開発援助を野党支持者抑圧の道具として悪用し、政府批判を封じ込めています。それにもかかわらず、援助国や開発機関はそうしたエチオピア政府のやり方に、更なる開発援助増額で応えてしまっています。この開発援助には、日本の政府開発援助 (ODA)、すなわち我々一般市民の税金も含まれています。

1985年、故マイケル・ジャクソンなどが集まって歌った“We are the world”は、エチオピアの飢餓難民救済の活動でありましたが、それ以降もエチオピアは不安定な政情が続いています。現メレス政権のエチオピアで何が起きているのか、そして我々は何ができるのか、考えてみましょう。

エチオピアにおける援助の悪用に関して、下記をご参照ください。<http://www.hrw.org/ja/news/2010/10/19>



注：講義は英語で行われます。

ヒューマンライツウォッチは、国際キャリア実習 I の受け入れ先です。